

原著論文

看護学学士において保健師に向かう学生の 「選択」のRodgersの概念分析 Rodgers' Concept Analysis of the "Choice" of Students taking up Bachelor of Science in Nursing who Aim to Become Public Health Nurses

上田 修代・渡辺 羊子・戸塚 恵子

要旨

目的: 本研究は、看護学学士課程において保健師に向かう学生の「選択」の概念をRodgersの概念分析法で明確化することである。

方法: CINAHL、MEDLINEを使用し「community health nursing」「baccalaureate students」を検索語とし洋文献27件を対象文献とした。さらに、ハンドサーチで和文献1件と洋文献2件の3件を選び、合計30件を最終的な分析対象文献とした。

結果: 文献より「先行要件」「属性」「帰結」に分類した概念を抽出し、概念モデルを図に示した。「選択」の概念の属性には、第一層、第二層、第三層があり思考が循環し、能力が向上していた。学生個人の帰結として実践的スキルの応用等が創出され、地域全体の公衆衛生の向上が導かれた。

考察: 学生の「選択」の動機や関心の特徴は、楽しさを重視するが、仕事の奥深さを感じることであり、「選択」が強化されていた。「選択」の測定の関連では、社会人基礎力から、「自分の考えや保健師活動を言語化する経験」を明確に積み重ねることが、保健師教育の今後の課題であった。また、キャリアの観点からは、地域全体を捉えた長期的な目標を持ち、住民の健康課題を捉える場合に、学生は不確かさを感じており、「選択」に影響をもたらしていることが明らかになった。

キーワード: 保健師、学士課程、概念分析、選択

Abstract

Aim: Using Rodgers' concept analysis method, this study aimed to clarify the concept of "choice" among students taking up Bachelor of Science in Nursing and wanting to become public health nurses. Methods: Keywords such as "community health nursing" and "baccalaureate students" were searched in CINAHL and MEDLINE databases.

Results: Several concepts extracted from 30 documents were analyzed and classified into "attributes," "pre-requisites," and "consequences." Then, a conceptual model was created. The attributes of the concept of "choice" are categorized into the first, second, and third layers, which were cyclical. These were then integrated to attain "improved ability" and "practical skills application" as individual student outcomes, leading to "improved public health" for the whole community.

Discussion: Students' motivations and interests in "choice" were characterized by placing importance on enjoyment in their choices, but aspects such as feeling the depth of their work strengthened their choice. In relation to previous attempts to measure "choice," the future challenge for public health nurse education was to clearly accumulate "experiences of verbalizations of one's own ideas and public health nurse activities" based on the foundation of social skills. Additionally, from the perspective of career, students felt uncertain when they established long-term goals that encompassed the entire community and identified health issues for residents, affecting their "choice".

Key Words: community health nursing, baccalaureate students, concept analysis, choice

I. はじめに

看護を学ぶ学生にとって、看護師は出会う機会のある身近な存在であるが、保健師については、一般的に出会うことや、その仕事を知る機会はほとんどなく、活動が見えづらい。看護学部に入学者、看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」に至る過程では、進路への迷いや保健師が住民に予防的に関わる看護実践の効果に不確かさを抱いている。大川内・中島富原他(2020)の調査によると、学生の自信が不足すると自己効力感が下がり、職業選択に戸惑うと報告がある。

保健師教育は2010(平成22)年4月「保健師助産師看護師法(以下、保助看法)」及び「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の一部改正法が施行され、保健師の修学年限が「半年以上」から「1年以上」に延長された。同年8月には文部科学省の「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」中間報告を受け保健師国家試験受験資格を大学の卒業要件から外することが可能になり、大学における保健師教育はⅠ. 学士課程での全員必修、Ⅱ. 学士課程での選択制、Ⅲ. 1年間の専攻科、Ⅳ. 2年間の大学院課程または専門職大学院、の4つのタイプで行うこととなり、その選択は各々の大学に任された。佐伯(2018)は、生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学への転換の必要性を述べている。また、学生の準備性の面からカリキュラムをみると、教育課程を作成するに際して、教育の対象である入学者(履修

者)の背景を十分に理解することで、学生の準備性に見合ったカリキュラムを構築することが必要である。また佐伯(2018)は、学生の意識や体験内容と保健師という職業への興味関心の程度、臨床や地域での活動を実際に見聞した体験の程度、将来の職業としての保健師選択の意志、高校までの教育の修了の状況、進学または履修の動機などを理解することが必要であると述べている。

看護学学士課程の保健師教育では、2010(平成22)年に文部科学省より「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」中間報告が出され、学部での保健師課程選択性が進んだ。これは、保健師課程選択制の意味が、言葉だけでなく選択制の内容が普遍的に理解されているということを前提で使用されている。「選択」は意思決定の中の一段階であり実際に行動を起こすための具体的な行為である(大辞林第二版)。意思決定が深い分析や評価を必要とするのに対し、「選択」はその結果を実行に移す前に、よいものを取り、悪いもの捨て、適当なものを選びだすという取捨選択(広辞苑第七版)とされている。しかし、保健師課程選択性に臨む学生は、将来の職業を選ぶという分岐点で、未知の世界に飛び込むかどうかという取捨選択をしなければならない。その分岐点での「選択」には、学生の動機や関心が深く関連している(佐伯2018)。また、保健師課程選択制の内容が普遍的に理解されている状況から、これまでに「選択」をどのように捉えてきたの

か既存の定義を調べ、照らしあわせる必要がある。そして、そのうえで、保健師教育の課題を見出していく。この論考に沿って「選択」の概念を明らかにするために、具体的な問いを以下に述べる。これは、Rodgers・Knafl 著/近藤・片田監訳（2023, p203）の論考に沿っているものであり、とらえにくい性質の「選択」の概念に迫ることが可能になる。

1. 看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の前提にある、動機や関心の内容の特徴にはどのようなものがあるのか。
2. 「選択」を測定する試みと既存の定義とは、どの程度関連しているのか。
3. 「選択」の意味・定義と本研究結果の関連と保健師教育の課題には、どのようなものがあるのか。

Ⅱ. 研究目的

看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の概念をRodgersの概念分析法を用いて明らかにすることを目的とする。

このことにより、看護学学士において保健師に向かう学生が抱えている迷いや不確かさの内容と、学士課程での保健師教育の課題が明らかになることが期待される。その結果、保健師学生への教育プログラム開発の研究の示唆を得ることが可能となる。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究デザイン

概念は時間や状況に応じて変化するという哲学的基盤に基づくRodgers（2000）の概念分析の手法を用いた。Rodgers（2000, p80）は、概念分析の目的を、概念が使用される文脈を省察し、最終的にはより有用な概念の開発へと向かうことと述べている。そのため学生が自身がおかれている環境や生活背景、学修状況で変化していく興味、関心、それまでの経験を意味づける思考の経過を捉えることに適していると考えた。

Rodgers（2000）の概念分析は、データ収集する範囲を定め文献を選定し、文献の質的分析により概念の使われ方の特徴を示す「属性」、概念の前に生じる「先行要件」、概念が生じた結果として生じる「帰結」の3つの枠組みを明らかにする。概念の定義と属性、文脈的基盤を同定し、さらなる開発のための示唆を導き出すことが可能である。また「属性」の内容が真の定義を構成するとされているため、分析した結果をもとに、看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の概念を定義した。

2. データ収集方法

データベースの検索期間を特定するにあたり、学部での保健師課程選択制の背景を述べる。前述したとおり、2010（平成22）年4月の「保助看法」、及び「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の一部改正法が施行され、保健師の修学年限が「半年以上」から「1年以上」に延長された。そして、同年8月には文部科学省の「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」中間報告を受け、学部選択性が進んだ。そのため、検索期間は2010年～2024年とした。

日本語文献のデータベースは、医学中央雑誌Web版（以下、医中誌）で2024年11月30日に検索語を「保健師」「学士課程」「選択」とし、会議録を除き検索したところ8件であった。その内容は、短期大学専攻科の歴史に関するものが1件、学士卒業生の就職定着に関するものが1件、修士課程に関するものが2件、編入学に関するものが1件、社会福祉士に関するものが1件、助産学に関するものが1件、残りの1件は、学士課程の保健師教育に関するものではあったが、知見が限定的で「選択」の場面が読み取れなかった。そのため、看護学の文献を広く調べる必要があると考え、洋文献を調べることとした。

英語文献のデータベースは、英米の看護学文献の検索に適しているCHNAHL with Full Text（以下、CHNAHL）、米国国立医学図書

館が作成し、医学分野で整理された文献検索に適しているMEDLINE with Full Text (以下、MEDLINE)を使用した。検索語は「community health nursing」「baccalaureate students」とした。検索語に「community health nursing」を選んだ理由は、健康課題解決の捉え方を、日本の保健師教育と同様に個人から集団への課題解決の視点として扱っている語であったためである。英米における地域・公衆衛生看護学教育の教科書の動向を調べた牛尾・竹村・小巻他(2016)は、地域看護師(communitary health nurses)及びスタッフレベルの公衆衛生看護師(staff public health nurses)は地域志向の実践の中で個人や家族に焦点をあてた実践(直接ケアや健康教育)を担っていると述べており、個人から集団への視点を持つ「community health nursing」が適していると考え、検索語とした。

対象は英文で、抄録があるものとし、期間は2010年～2024年とした。2024年12月3日に検索した結果、CHNAHLは45件、MEDLINEは41件であり、計86件であった。また、洋文献の中の引用文献を調べ、ハンドサーチで2件を追加し、洋文献の合計は88件であった。88件の中から重複文献の12文献を統合し、67件となった。その後、論文を精読し、看護学学士において保健師に向かう学生が「選択」の場面に遭遇している論文を選定した。その結果、洋文献は29件、和文献は、医中誌Web版で検索した文献の引用文献からハンドサーチで1件を選び、合計30文献を分析対象とした(表1)。

3. 分析方法

看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の場面に着目しながら各文献を精読した。具体的には、対象とした文献の中で「選択」の言語が使用されている文章の前後の文脈を注意深く読み、まず概念の内容や特徴を示す「属性」を分析した。その後、「属性」が起こる前に何が起きているかを示す「先行要件」、その概念に引き続き起こり、概念の結果生じる「帰結」に関するそれぞれの記述をコーディン

グシートに抽出した。その後、記述の意味内容は変わらないように要約したものをコードとした。そのコードを類似性と相違性で分類し、カテゴリー化、サブカテゴリー化し抽象度を挙げた。カテゴリー間の関係性は概念図に示し、本概念の定義を作成した。

IV. 結果

表1は、すべて学士課程でcommunity health nursingの教育もしくは保健師教育を受けている学生を対象としている文献であった。分析の結果、選択の属性は11カテゴリー、先行要件は4カテゴリー、帰結は4カテゴリーに分類された(表2～4)。

結果の記載順として、まず「選択」の特徴である「属性」を特定した経過を述べる。「先行要件」は、「属性」の特徴を見定めてその背景や前提を記載するため、「属性」の次に述べる。その後、「属性」と「先行要件」によって、導かれた「帰結」について述べる。最後に、「属性」「先行要件」「帰結」の関係性を「選択」の概念図として示す。

1. 看護学学士において保健師に向かう「選択」の属性(表2)

11カテゴリーの内容は、価値観の変化と再構築、学習環境、公衆衛生看護実践スキル、理解の深化、批判的思考の発展、協働、自己効力感、能力の向上、動機の高まり、関心と優先、カリキュラムであった。

1) 価値観の変化と再構築

学生は、ホームレスの健康ケアモデルを通じて社会的不平等を認識し、その経験が選択に影響を与え、社会的影響の認識が変化していた。また、実践的な経験を通じて保健師の業務の多様性や重要性を知ることによって選択への関心が高まるということがあった。価値観の再構築では、学生が異文化体験を通じて価値観を再構築し、文化的な多様性を理解し選択のプロセスに影響を与えるがあった。また、地域のケアの価値観形成では、学生が地域住民と協働し、地域にお

表1 文献一覧

文献番号	検索エンジン	タイトル	著者/発行年	概要
1	CHNAHL	Health Care for the Homeless: A Partnership Between a City and a School of Nursing.	Pennington, Karen et al. 2010	看護学士課程学生がホームレスに関するコミュニティ・パートナーシップの体験をし、人々や医療提供システムについての理解を調査。
2	CHNAHL	A school of nursing-wellness center partnership: creating collaborative practice experiences for undergraduate US senior nursing students.	Aponie, Judith et al. 2010	学部4年生に、コミュニティ/公衆衛生看護の臨床実習の場を提供し、知識と批判的思考スキルや詳細内容を調査した。
3	CHNAHL MEDLINE	Career Intention of Baccalaureate Student Nurses: Understanding the Barriers, Enablers, and Predictors Toward Public/Community Health Nursing.	Docherty, Angie et al. 2023	目的:看護学生の初期キャリア意向を明らかにする。
4	CHNAHL MEDLINE	Factors underlying perceptions of community care and other healthcare areas in first-year baccalaureate nursing students: A focus group study.	van Iersel, Margriet et al. 2018	目的:看護学科の1年生におけるヘルスケア領域に対する認識の根拠にある要因を明らかにする。
5	CHNAHL	Influence of Short-Term Study Abroad Experiences on Community Health Baccalaureate Students.	Phillips, Lynelle et al. 2017	目的:地域保健臨床体験の短期留学を実施し、文化、健康、幸福に対する期待や認識について調査した。
6	CHNAHL MEDLINE	Measuring Bachelor of Science in Nursing competencies in public/population health.	Swickor, Susan M Didion, Judy; et al. 2022	目的:看護学生のボリューメーションヘルスのコンピテンシーの測定。
7	CHNAHL	Public health champions in the making: An innovative undergraduate nursing pedagogy.	Szajna, Amy et al. 2020	目的:地域社会で効果的に働けるように看護学士課程の学生の教育法を提案する。
8	CHNAHL	Development of a comprehensive infection control program for a short-term shelter serving trafficked women.	Jones, Erin et al. 2019	目的:学術界と非営利機関とのパートナーシップは、公衆衛生看護の領域における学生の学習プロジェクトを実施。
9	CHNAHL	How nursing students' placement preferences and perceptions of community care develop in a more 'community-oriented' curriculum: a longitudinal cohort study.	Van Iersel, Margriet et al. 2020	目的:「地域ケア志向」のカリキュラムの中で、看護学科の学生の地域ケアに対する認識や配属希望が時間の経過とともにどのように変化していくかを調査。
10	CHNAHL MEDLINE	Neighbourhood as community: A qualitative descriptive study of nursing students' experiences of community health nursing.	Babenko-Mould, et al. 2016	目的:看護学生を対象とした地域実習の経験が学生の学びにどのような影響を与えるのか調査を実施。
11	CHNAHL MEDLINE	Perceptions of community care and placement preferences in first-year nursing students: A multicentre, cross-sectional study.	van Iersel, Margriet et al. 2018	目的:地域ケアを選択する看護学生が少ないため看護学生1年生の地域ケアに対する認識、配置の希望調査。
12	CHNAHL	A Strategy to Enhance Student Experiences in Public Health Emergency Preparedness and Response.	Stein, Loren Nell Melton2017	目的:公衆衛生看護人材の育成のために、夏期ボランティア体験をした看護学生に災害対応の知識と技能を調査した。
13	CHNAHL	The effect of a more community-oriented curriculum on nursing students' intervention choice in community care: A quasi-experimental cohort study.	Van Iersel, Margriet et al. 2022	目的:より「地域志向」の看護学カリキュラムが、地域ケアにおける学生の介入選択に及ぼす影響を調査する。
14	CHNAHL	Undergraduate Nursing Students' Experience of Service-Learning: A Phenomenological Study.	Knecht, Janet Gavin et al. 2015	目的:郡心部の社会的弱者を対象としたケアを体験した看護学生体験を調査。
15	CHNAHL	Academic-Practice Collaboration in Nursing Education: Service-Learning for Injury Prevention.	Alexander, Gina et al. 2014	看護学生が住民に焦点を当てた公衆衛生看護実習を実施し、地域社会の評価を行い、エビデンスに基づく介入策を体系的に計画、実施、評価するプロセスについて述べる。
16	CHNAHL MEDLINE	Impact of preparing nursing students to deliver a parent-based sexual health intervention on attitudes and intentions for sexual health education and parent communication counseling: a mixed methods study.	Coleman, Deidra Carroll; et al.2015	地域/公衆衛生看護臨床コースに在籍する看護学生を対象に、親ベースの性的健康介入への参加が与える影響を調査。
17	CHNAHL MEDLINE	Moral distress of undergraduate nursing students in community health nursing.	Escolar Chua et al. 2019	目的:地域保健看護学の学部学生が遭遇する道徳的苦痛の経験の探求。
18	CHNAHL MEDLINE	Effectiveness of a Poverty Simulation in Second Life®: Changing Nursing Student Attitudes toward Poor People.	Monzel, Nancy et al. 2014	地域保健看護学クラスの学生を対象に仮想貧困シミュレーションを実施し共感と帰属意識を向上させるかどうかを検討。
19	MEDLINE	Developing guidelines for quality community health nursing clinical placements for baccalaureate nursing students.	Dietrich Leurer, et al. 2011.	「質の高い地域保健看護臨床実習のためのガイドライン」は、地域保健看護学生の臨床実習の状況の変化から生じる課題と機会に対処する方向性から、カナダの看護学校と実習場に提供した。
20	MEDLINE	Comparing student role perceptions: traditional to community-based curriculum.	Nickerson, Carolyn et al. 2010.	米国の看護学士学校のカリキュラム改訂後、伝統的カリキュラムと地域密着型カリキュラムにおける4年生の役割認識を調査した。
21	MEDLINE	Using the Omaha System as a framework to demonstrate the value of nurse managed wellness center services for vulnerable populations.	Thompson, Cheryl et al. 2012	看護学生が、社会的弱者に価値あるウェルネス・サービスを提供し、豊かな地域保健の臨床経験を積むための学術的なサービス環境である。
22	MEDLINE	Nursing students' spiritual well-being, spirituality and spiritual care.	Abbasi, Mojgan et al. 2014	スピリチュアルケアの視点について、看護学科1年生と4年生の間で比較を行った。
23	MEDLINE	Evaluation of a Wellness Clinic in Assessing Knowledge Synthesis Among Bachelor of Science in Nursing Students.	Christensen, Stacy et al. 2020	看護学士学生の臨床学習経験をカリキュラムの知識統合の視点で調査する。
24	MEDLINE	Enhancing Community Education Through Innovative Teaching Strategies in a Baccalaureate Nursing Program.	Lambert, Ann W et al. Johnson, 2018	看護学校と地域社会と協力し、学生は文化的アセスメント、コミュニケーションスキルを学んだ。
25	MEDLINE	Assessment of public health core competencies in prelicensure baccalaureate nursing students.	Siemon, Mark et al. 2017	目的:看護学生が地域保健看護コースを修了する前と修了後の公衆衛生の能力レベルを調査した。
26	MEDLINE	Learning compassionate care: Experiences of nursing students.	Su, Jing Jing et al. 2021	看護学士課程の学生が臨床実習の1年間で、思いやりのあるケアを提供するためのコンピテンシーを獲得した経験を調査した。
27	MEDLINE	Academic-Hospital Partnership: Conducting a Community Health Needs Assessment as a Service Learning Project.	Krumwiede, Kelly A et al. 2014	目的は、看護学生が地域社会の健康ニーズ調査を実施しながら、CBCAR (Community-Based Collaborative Action Research) の枠組みを活用することであり、その内容を評価することである。
28	ハンドサーチ	Levels of motivation and basic psychological need satisfaction in nursing students. In perspective of self-determination theory	Leila Jansar Hosseini, et al.	目的:学生の基本的な心理的ニーズを特定し、それが動機付けのレベルと自己決定動機付けに与える影響を明らかにする。
29	ハンドサーチ	Community health learning experiences that influence RN to BSN students interests in community/public health nursing.	Megan L Steffy 2019	看護学士学生にコミュニティヘルス臨床経験を提供し、急性期病院の環境から地域の医療環境へと専門的な役割の変化する看護学生の関心に影響を与えた地域医療学習経験を調査した。
30	ハンドサーチ	看護学生が保健師の職業選択を強化した要因	吹野信浩 他 2022	目的:看護学生が保健師の職業選択を強化した要因を明らかにする。

表2 看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の属性

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	文献番号
価値観の変化と再構築	社会的影響の認識	学生は、ホームレスの健康ケアモデルを通じて社会的な不平等を認識し、その経験が選択に影響を与える	1
	経験を通じた価値観の変化	実践的な経験を通じて保健師の業務の多様性や重要性を知ることによって選択への関心が高まる	1、30
		学生は多様な患者層や状況に対応することに魅力を感じ、それが選択に影響する	4、11、12
	価値観の再構築	学生が異文化体験を通じて価値観を再構築し、文化的な多様性を理解し選択のプロセスに影響を与える	3、5、8、9、10、12、13、14、15、19、21、22、24、27、30
	健康と幸福の再定義	健康や幸福に対する理解が、個人主義から共同体重視の視点に変化する	5
学習環境	地域へのケアの価値観形成	学生が地域住民と協働し、地域におけるケアの重要性を理解し、価値を深め、それがキャリア選択に影響する	14、15、19、20、21、27、29
	支援的な学習環境	学生の支援的な学習環境が、学生の選択の基盤を形成する	6、10
	ロールモデルの影響	学生は、家族や教員、理想的な保健師の影響を受け、選択の動機となる	4、9、30
	教育環境の影響	教育環境が学生の動機づけや選択に影響を与える	26、29、30
	学生を取り巻く社会的要因の影響	学生の経済状況や居住状況が、教育環境での選択に影響する	2、3、
公衆衛生看護実践スキル	実践的スキルの発展によって得た選択への醸成	学生が地域看護や公衆衛生看護の実践スキルを向上させ、それが選択に影響を与える 保健師が住民個々だけでなくその環境全体を見るという実践を学生が見て、選択への影響を与える	6、8、10、12、13、14、15、16、19、25、27、30
	政策形成と計画スキルの向上	学生が政策開発や計画立案を学び、健康政策の重要性を認識し、それを選択に反映する	6、25
理解の深化	社会的決定要因の理解	学生が住民の健康と社会的環境の相互作用を理解し、それを選択の基準にし、影響を与える	2、9、10、12
	健康の社会的決定要因の理解	住民の社会的要因が健康に与える影響を理解し、それを基に選択をおこなう	6、7、8、13
	社会構造の理解	貧困の原因を多角的に理解し、それが選択に影響を与える	26
批判的思考の発展	批判的思考の発展	学生が災害対応や貧困など公衆衛生における複雑な地域課題を分析し課題に対処する中で批判的思考力を高め、それが選択に影響する	3、4、6、7、8、9、10、12、13、16、19、18、20、22、26、27、29
	課題への挑戦	学生は、速さや技術的スキルが求められる環境での挑戦を求め、それが選択に影響する	4
協働	協働の価値	他の医療専門職と協働する経験を通じて連携の能力を培い、選択に影響を受ける	4、8、9、10、19、23、29
自己効力感	自己効力感の高まりと強化	学生が自分の能力に自信を持つことで、特定のキャリアを選ぶ意欲が高まり、それが選択に影響を与える	4、16、9、10、11、12、13、14、15、18、19、20、21、23、24、25、26、27、28、29
能力の向上	適応能力と即興力の向上	厳しい環境に適応する能力や即興力が向上し、それが進路選択に寄与する	5
	コミュニケーションスキルの向上	他者との効果的なコミュニケーション能力を身につけ、それが選択に影響を与える	6、7
	倫理的な課題に直面し、倫理的判断力の育成	学生が倫理的な問題に直面し、価値観や理想と現実のギャップに苦悩する経験を通じて選択に影響を与える	7、17
動機の高まり	楽しさと重要性のバランスによる動機の変化	学生は、キャリア選択において楽しさを重視し、社会的な重要性を考慮する傾向があり、それが選択に影響する	11、30
	地域へのケアに関する認識	学生は地域へのケアに対して誤解を持ち、それが選択にネガティブな影響を与える	11
関心と優先	社会正義への関心の向上	社会正義の価値を認識し、それを基盤に看護ケアの選択をおこなう	18
	患者の健康改善に直接貢献できる環境を優先する	学生は、患者の健康改善に直接貢献できる環境を優先する傾向があり、それが選択に影響する	4
	ケア対象者への共感の深化	学生が支援ニーズの高い住民に接することで対象者への共感能力を深め、それが選択に影響を与える	5、14、18、20、23、26
カリキュラム	カリキュラムの設計と内容	地域指向で、住民のニーズにあったカリキュラムが学生の知識と実践力を深め選択に影響を与える	3、13、19、14、15、16、17、18、23、25、26、27、28、29

けるケアの重要性を理解し、価値を深め、それがキャリア選択に影響するが、あった。

2) 学習環境

学習環境では、支援的な学習環境が、学生の選択の基盤を形成していた。ロールモデルの影響では、学生は、家族や教員、理想的な保健師の影響を受け、選択の動機としていた。教育環境の影響では、教育環境が学生の動機づけが選択に影響を与えていた。学生を取り巻く社会的要因の影響では、学生の経済状況や居住状況が教育環境での選択に影響する、があった。

3) 公衆衛生看護実践スキル

実践的スキルの発展によって得た選択への醸成では、学生が地域看護や公衆衛生看護の実践スキルを向上させ、それが選択に影響を与えるが、あった。政策形成と計画スキルの向上では、学生が政策開発や計画立案を学び、健康政策の重要性を認識し、それを選択に反映する、があった。

4) 理解の深化

社会的決定要因の理解では、学生が住民の健康と社会的環境の相互作用を理解し、それを選択の基準にし影響を与える、があった。健康の社会的決定要因の理解では、住民の社会的要因が健康に与える影響を理解し、それを基に選択をおこなうがあった。また、社会構造の理解では、貧困の原因を多角的に理解し、それが選択に影響を与える、があった。

5) 批判的思考の発展

批判的思考の発展では、学生が災害対応や貧困など公衆衛生における複雑な地域課題を分析し、課題に対処する中で批判的思考力を高め、それが選択に影響していた。課題への挑戦で学生は、速さや技術的スキルが求められる環境での挑戦を求め、それが選択に影響する、があった。

6) 協働

協働の価値は、他の医療専門職と協働する経験を通じて連携の能力を培い、選択に影響を及ぼしていた。

7) 自己効力感

自己効力感の高まりと強化には、学生が自分の能力に自信を持つことで、特定のキャリアを選ぶ意欲が高まり、それが選択に影響を与える、があった。

8) 能力の向上

適応能力と即興力の向上には、厳しい環境に適応する能力や即興力が向上し、それが進路選択に寄与する、があった。また、コミュニケーションスキルの向上では、他者との効果的なコミュニケーション能力を身につけ、それが選択に影響を与えるがあった。倫理的な課題に直面し、倫理的判断力の育成は、学生が倫理的な問題に直面することで価値観や理想と現実のギャップに苦悩し、選択に影響を与える、があった。

9) 動機の高まり

楽しさと重要性のバランスによる動機の変化では、学生は、キャリア選択において楽しさを重視し、社会的な重要性を考慮する傾向があり、それが選択に影響していた。地域のケアに関する認識では、学生は地域のケアに対して誤解を持ち、それが選択にネガティブな影響を与える、があった。

10) 関心と優先

社会正義への関心の向上では、社会正義の価値を認識し、それを基盤に看護ケアの選択をおこなっていた。また学生は、患者の健康改善に直接貢献できる環境を優先する傾向があり、それが選択に影響する、があった。また、ケア対象者への共感の深化では、学生が支援ニーズの高い住民に接することで対象者への共感能力を深め、それが選択に影響を与える、があった。

11) カリキュラム

カリキュラムの設計と内容として地域指向で、住民のニーズにあったカリキュラムが学生の知識と実践力を深め選択に影響を与える、があった。

2. 看護学学士において保健師に向かう「選択」の先行要件 (表3)

「選択」の先行要件には、異文化理解の促進、実践的スキルの習得、公衆衛生の基礎知識、教育環境の充実、があった。

1) 異文化理解の促進

異文化体験の促進には、異文化に対する関心を持つことがあった。異文化適応力の開発には、異文化体験を通じた適応力の育成、異文化交流の機会提供には、異文化研修プログラムへの参加、があった。

2) 実践的スキルの習得

臨床経験の提供では、看護学の基本知識と臨床経験の統合、実地経験を通じた学びには、臨床実習の場でスキルを磨くこと、効果的なモデルへのアクセスには、効果的なロールモデルを参照する、があった。

3) 公衆衛生の基礎知識

公衆衛生課題の理解には、公衆衛生の概念と健康の社会的決定要因に基づいた教育を受ける、があった。災害対応スキルの習得では、緊急対応に必要な知識と実践スキルを学ぶがあった。地域健康ニーズの評価スキルでは、コミュニティ健康問題の特定と評価能力を身につける

があった。

4) 教育環境の充実

自主性を重視した教育方法等、支援的な学習環境には、実習指導者や教員からの支援を受ける、があった。

3. 「選択」の帰結 (表4)

「選択」の帰結には、異文化理解の向上、実践的スキルの応用、公衆衛生の向上、倫理的および感情的成長、があった。

1) 異文化理解の向上

文化的能力の発展では、異文化における看護実践スキルを向上させる、があった。異文化コミュニケーションの強化では、異文化で患者との相互理解を促進する、があった。社会的健康の決定要因の認識では、社会的健康の決定要因への理解を深める、があった。

2) 実践的スキルの応用

臨床スキルの統合には、看護理論と臨床スキルを統合し、効果的な看護ケアを提供する、があった。コミュニティ介入スキルの向上では、健康促進および疾病予防活動を包括的に実施できる能力を発展させる、があった。教育活動を通じた実践力の強化には、地域社会の教育活動を通じて看護理論と実践を結びつける、が

表3 看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の先行要件

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	文献番号
異文化理解の促進	異文化体験の促進	異文化に対する関心を持つこと	1、5、13
	異文化適応力の開発	異文化体験を通じた適応力の育成	1、5
	異文化交流の機会提供	異文化研修プログラムへの参加	1、5
実践的スキルの習得	臨床経験の提供	看護学の基本知識と臨床経験の統合	2、10、19
	実地経験を通じた学び	臨床実習の場でスキルを磨くこと	4、10、19、21
	効果的なモデルへのアクセス	効果的なロールモデルを参照	4、13
公衆衛生の基礎知識	公衆衛生課題の理解	公衆衛生の概念と健康の社会的決定要因に基づいた教育を受ける	6、7、21、25
	災害対応スキルの習得	緊急対応に必要な知識と実践スキルを学ぶ	12、19
	地域健康ニーズの評価スキル	コミュニティ健康問題の特定と評価能力を身につける	6、21、25、29
教育環境の充実	自主性を重視した教育方法	自律性と関係性を尊重した教育環境の整備	28、30
	支援的な学習環境	実習指導者や教員からの支援を受ける	10、29、30

表4 看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の帰結

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	文献番号
異文化理解の向上	文化的能力の発展	異文化における看護実践スキルを向上させる	1, 5
	異文化コミュニケーションの強化	異文化で患者との相互理解を促進する	1
	社会的健康の決定要因の認識	社会的健康の決定要因への理解を深める	1, 5, 25
実践的スキルの応用	臨床スキルの統合	看護理論と臨床スキルを統合し、効果的な看護ケアを提供する	2, 10, 25
	コミュニティ介入スキルの向上	健康促進および疾病予防活動を包括的に実施できる能力を発展させる	2, 6, 13
	教育活動を通じた実践力の強化	地域社会の教育活動を通じて看護理論と実践を結びつける	24, 25
公衆衛生の向上	地域健康課題への対応能力	地域健康課題に対応し、持続可能な健康促進活動を実現する	6, 7, 21, 29
	健康格差の是正への貢献	健康格差を改善し、地域住民の健康行動を向上させる	7, 13, 21
	公衆衛生看護の専門性の向上	公衆衛生看護の専門性を身につけ、コミュニティ看護師として活躍する準備を整える	6, 13, 19
倫理のおよび感情的成長	道徳的判断と勇気の発展	倫理的課題に対応し、質の高い看護ケアを提供する能力を高める	17, 19
	思いやりの価値観の内在化	思いやりのあるケアを実践し、患者中心の看護ケアを提供する能力を育む	26

あった。

3) 公衆衛生の向上

地域健康課題への対応能力では、地域健康課題に対応し、持続可能な健康促進活動を実現する、があった。健康格差の是正への貢献には、健康格差を改善し、地域住民の健康行動を向上させる、があった。公衆衛生看護の専門性の向上では、公衆衛生看護の専門性を身につけ、コミュニティ看護師として活躍する準備を整える、があった。

4) 倫理のおよび感情的成長

これには、道徳的判断と勇気の発展として、倫理的課題に対応し、質の高い看護ケアを提供する能力を高める、があった。思いやりの価値観の内在化には、思いやりのあるケアを実践し、患者中心の看護ケアを提供する能力を育む、があった。

4. 看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の概念図(図1)

看護学学士において保健師に向かう学生の概念に先行している先行要件、概念の特性を示す

属性、概念の結果生じる帰結との関連性を概念図として示す(図1)。

「選択」の概念の先行要件としては、異文化理解の促進、教育環境の充実、公衆衛生の基礎知識、実践的スキルの習得が存在していた。

「選択」の属性の概念には、カリキュラムと学習環境を基盤として、公衆衛生看護実践スキルを学び、かつ協働を体験したことにより、学生の内面で、まず一層目では動機の高まり、関心と優先が変化していた。二層目では批判的思考の発展、自己効力感の高まりがあり、三層目の価値観の変化と再構築、理解の深化につながっていた。そしてこの三層は循環して、能力の向上となっていた。

第一層は、学士課程の低学年で生じており、地域の看護に関する人との出会いや実習などの初めての経験、第二層は、第一層で体験した経験からの内省、第三層は、第一層と第二層による新たに生じた価値観であり、これらは循環していた。そして、それらを統合して、能力が向上し、学生個人としての「選択」の概念の帰結

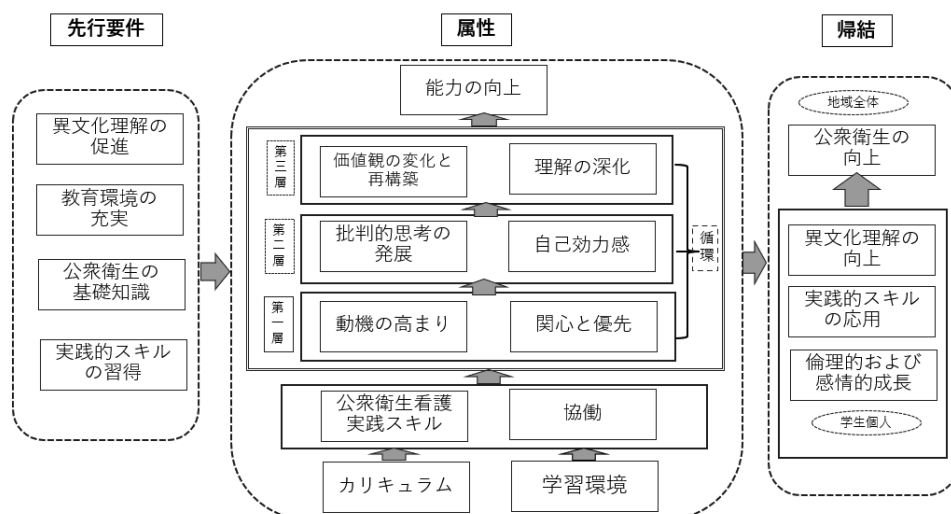


図1 看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の概念図

として異文化理解の向上、実践的スキルの応用、倫理のおよび感情的成長が創出され、その結果、地域全体の公衆衛生の向上が導かれた。

V. 考察

保健師課程選択制の内容が普遍的に理解されている前提で、「選択」という言葉が使用されていることは前述した。しかし、結果より学生個々人の準備性やスキル、環境等により、学生にとっての「選択」の意味内容が同一ではないことが分かってきた。つまり、「選択」とは曖昧な状況で使用されている言葉であった。そのため、「選択」の概念に迫り内容を明らかにするために、前述した三つの問いに沿って、論じていく。

1. 看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の前提にある、動機や関心の内容の特徴

属性の第一層目で学生は、キャリア選択において楽しさを重視し、社会的な重要性を考慮する傾向があり、それが選択に影響していた。学生は患者の健康改善に直接貢献できる環境を優先する、があった。地域のケアは、その場で対象者の健康課題を解決できない場合がある。特に、個人から集団へと健康課題を捉える場合、

予防的な看護が必要となり、長期的に看護実践をおこなうことが多い。学生は、すぐに達成感を得ようとして、患者の健康改善に直接貢献できる環境を優先する、という選択をする。短期的に看護の効果を実感できないと、保健師の看護実践の効果を不確かで効果のないものと捉える。平野・池田・金川(2005)他は、保健師養成課程のある看護系大学生を対象とした調査を実施し、保健師を希望するようになったきっかけは、大学では半数以上が入学後に実習によって動機づけられていたと述べている。実習により、成功体験や達成感を得た学生は、自己効力感の高まりと強化を経て、保健師の看護実践への興味や関心が湧く。その結果、保健師の看護実践の中の予防的な看護も肯定的に捉えるという過程を経る。吹野・松浦・金田(2022)は、看護学生が保健師の職業選択を強化した要因について、予防活動等で日常生活に関わりたいという気持ちの芽生えにより、保健師への関心が高まり、仕事の奥深さを感じることや理想となる保健師との出会い等により、職業選択が強化されると述べている。これは、学生は、家族や教員、理想的な保健師の影響を受け、選択の動機となる(表2)で明らかになったとおり、保健師のロールモデルに出会い、その仕事の奥深

さを感じるという体験が、選択の前提となっていた。

2. 「選択」を測定する試みと既存の定義との関連

「選択」を測定する試みを明らかにすることは、「選択」が普遍的に理解されている根源を探ることである。そのため、学生個人に関する測定結果として経済産業省や文部科学省等の国の方針として周知されている社会人基礎力の測定結果と学習環境の観点であるカリキュラムとの関連について述べていく。

1) 社会人基礎力との関連

経済産業省(2025)は、社会人基礎力とは、【前に踏み出す力】、【考え抜く力】、【チームで働く力】の3つの能力から構成されており、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として2006年に提唱している。その内容を詳しくみてみると、「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」は、「VUCA時代(Volatility《変動性・不安定さ》、Uncertainty《不確実性・不確定さ》、Complexity《複雑性》、Ambiguity《曖昧性・不明確さ》)がより顕在化してくる時代」においては、「個人」が、自らの問題意識で、学び、働くことを通じて、自らの「羅針盤」をもってキャリアを構築していくことの重要性がますます高まっているとも述べている。

尾無・畠山・川原・澤田(2023)は、社会人基礎力の観点である保健師の内発的動機づけを高める要因について調査した。その中には、前述したとおり【前に踏み出す力】、【考え抜く力】等があった。【前に踏み出す力】には、「自分の考えや保健師活動を言語化する経験」「住民との関わりから得られるやりがい」が影響していた。また、【考え抜く力】は「自身の課題への気づき」「自分の考えや保健師活動を言語化する経験」「住民との関わりから得られるやりがい」が影響を与えていたと述べている。

本研究結果に照らしあわせて考察する。【前に踏み出す力】の「住民関わりから得られるや

りがい」は、「属性」の実践的な経験を通じて保健師の業務の多様性や重要性を知ることによって選択への関心が高まる、であり、社会人基礎力の観点からも合致する。

【考え抜く力】の全体については、「属性」の第一層から第三層の思考過程との関連が認められる。しかし、「自分の考えや保健師活動を言語化する経験」は、本研究では認められなかった。これは、看護学学士において保健師に向かう学生の「選択」の概念の中の批判的思考の発展に内包されていると考える。しかし、明確な「自分の考えや保健師活動を言語化する経験」の記載が認められなかったためである。この観点は、保健師向かう学生の「選択」の概念を詳細にするためには重要であり、「自分の考えや保健師活動を言語化する経験」を明確に積み重ねることが、保健師教育での今後の課題となる。

2) カリキュラムとの関連

保健師教育の視点では、文部科学省は、2024年に看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂案を発表し、身体的・精神的・経験的・知識的・資源的準備性を基盤とし、学修者の準備性を学修者本位の教育を実施するための効果的かつ魅力的な方法の実践を求めた。つまり、保健師教育を行う教員は、看護専門職の基盤となる保健師課程の学修者の準備性を十分に理解し、教育に臨む必要がある。また、全国保健師教育機関協議会は、公衆衛生看護学教育モデル・コア・カリキュラム(2017)によって、公衆衛生看護の対象や対象の特性に応じた活動方法の理解、公衆衛生看護活動が行われる場の特性や場に応じた活動の理解を公衆衛生看護活動の基盤と位置づけており、これらを保健師としての資質・能力を獲得するための重要な学習内容として提示している。

麻原・大森・小林他(2010)は、保健医療における公正の考え方にに基づき、保健師技術の枠組みを作成した研究をおこなった。公衆衛生または公衆衛生看護の理念として、社会集団を対

象とした場合は、集団の構成員に平等に責任を持ち、保健サービスを公平に分配する社会的公正を前提に、保健師教育機関卒業時における技術項目を明らかにした。ここで、技術項目の到達度をみると、「個人/家族」を対象とした場合の到達度は、基本的な段階である「Ⅰ.ひとりで実施できる」ものが多いものの、「地域の人々の健康を保障するために、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と分配を促進する」の到達度の多くはさらに高い段階の「Ⅳ.知識としてわかる」段階を示した。これは、本研究結果の、属性の公衆衛生看護実践スキルの実践的スキルの発展によって得た選択への醸成の内容である。保健師が住民個々だけでなくその環境全体を見えるというものであり、選択に影響を与えていた。しかしここではあくまでも、本研究では、影響を与えるという限定的なものであった。つまり、保健師が「地域/集団」の健康課題を捉え、看護実践をおこなっていく姿を、学生はそれまでの経験から想起することができず、「選択」につながる自発的な想起の努力に至らないのであった。地域集団や組織のしくみと機能を理解し、地域集団の人々と関係職者との関係性に基づき、地域志向のカリキュラムを組み込んでいく必要がある。

3. 「選択」の意味・定義との本研究結果の関連と保健師教育の課題

本研究結果を、学生内面に生じている現象を多角的に捉え、また、社会状況や環境、これまでの他の分野で捉えられている知見と照合する必要がある。学生個人の内面を捉える学問として、心理学及び哲学的観点、学生の職業や経験を捉えるためキャリアの観点、社会背景や環境を捉える観点では社会学の観点から多角的に「選択」の概念を捉え、今後の保健師教育の課題を述べる。

1) 心理学及び哲学的観点

「属性」の第一層、第二層、第三層の循環は、経験と内省、外的な影響により変化した価値観を捉え、自身に取り込み想起し、実践と結

びつけようとする学生の自発的な思考の循環である。

「選択」の行動について、心理学辞典（藤永保 監修2013最新心理学辞典 平凡社）によると選択行動とは、二つ以上の可能な行動の選択肢があり、一つの行動尾しか自発できない場合には、どの行動か選択しなければならないとある。その場面に遭遇した時、学生は、それまでの経験と知覚や記憶を想起し、自発的な思考を最大限に循環させ、命題を見出していた。

内山は（2007）、ベリクソンの『物質と記憶』（1896）を読み解き、生物の持つ知覚が選択のための可能な選択肢の予描にほかならないと述べている。知覚にはすでに過去の記憶が投影されており、過去の経験を参照してその対象への可能な関わり予測する。知覚に投影される記憶の想起が、外的状況のみならず、自発的な「努力（effort）」によって左右されるという命題である定立に着目し、この想起する努力が強まるほど、より多くの記憶が反映されるという命題を結びつけ自由な行動が可能になると関連づけた。つまり、選択の前提にある、それまでの経験と結びつけようと想起する努力に着目する必要がある。

2) キャリアの観点

「選択」の概念の中で学生は、自身の経験とスキルについて実践的スキルの応用を実感し、「選択」への考えを醸成させていた。これは、一つの実践スキルを得たのみではなく、いくつかの実践スキルを統合し、経験を踏まえて関連させ、発展的に応用していることである。

「キャリア」の定義について、厚生労働省は、一般に「経歴」、「経験」、「発展」さらには、「関連した職務の連鎖」等と表現され、時間的持続性ないし継続性を持った概念として捉えられると述べている。

経営学習論で中原（2024）は、新人の不確実性について、新規参入者にとって、圧倒的な「不確実性」の中にいる状態であると述べている。新規参入者は「学習者」であるため、自ら

情報探索、出来事解釈することを通して、不確実性を減衰させ、積極的に社会化しようとしている。つまり、自分がある環境を少しでも理解可能なものとし、自身が抱く不確かさを減少させようとする」と述べている。

グレッグ (2005) は、キャリア開発は、組織のニーズと個人のニーズの一致を図る必要があると述べている。しかし一方で『目標・専門性の不確かさ』および『キャリアに対する不安・自信の欠如・不確実性』を記述した者が多いという結果も報告している。グレッグ (2005) の研究結果は、個人にとっての具体的なニーズが明らかにされていない問題を示している。つまり、明確な目標を立てて教育を進めていく必要がある。「選択」の概念の中で学生は、地域全体を捉えた長期的な目標を持ち、住民の健康課題を捉える場合に、不確かさを感じていた。長期的に支援する場合は、その期間に短・中期的目標を設定し、その都度課題を明確にしていく必要があることが示唆された。

3) 社会学の観点

社会学の観点からみると、学生の「選択」について丸山 (1981) は、学生は大学在学期間を通じて、過去の卒業生によって示される進路パターンに影響され、自分自身の希望進路パターンを形成していく傾向にあると述べている。学生は、「選択」しようとする時、ロールモデルを探し、家族や教員、理想的な保健師の影響を受け、選択の動機としていることは、本研究結果からも得られている。

中嶋 (2008) は、公務員進路の選択について調査し、「公務員養成校における学習面での適応が、公務員養成教育への満足度につながっている」「本命以外の公務員になった者にとっては、何らかの公務員に就かなければ『親に申し訳ない』という強い使命感に駆られた公務員就業と、それに対する周囲からの過剰な羨望により、『不本意就業』しているという意識を抱きやすい状況が生まれやすくなる」と述べている。これは、職業の「選択」には、両親や家族

の影響が強いことを示しており、本研究の保健師を「選択」しようとする学生にも当てはまる。本研究の属性の結果には、学生を取り巻く社会的要因の影響の中に、学生の経済状況や居住状況が、教育環境での選択に影響するがあった。学生が保健師教育を「選択」するに至るには、家庭の経済状況や家族の支援の有無が学生の学習環境に強く影響をもたらしていた。

VI. 結論

本研究は、看護学学士課程において保健師に向かう学生の「選択」の概念をRodgersの概念分析法で明確化することであった。

分析対象とした30件の文献より「属性」「先行要件」「帰結」の概念を抽出しそれらの関係性を概念図に示した。「選択」の属性の概念には、学生の内面で第一層、第二層、第三層の思考の循環あり、価値観の変容の理解の深化があり、それらを統合して、能力が向上していた。学生個人としての「選択」の概念の帰結としては、実践的スキルの応用、倫理的および感情的成長等が創出され、その結果、地域全体の公衆衛生の向上が導かれた。

学生の「選択」の前提にある、動機や関心の内容の特徴は、選択において楽しさを重視するが、仕事の奥深さを感じることや理想となる保健師との出会い等により、選択が強化されていた。

「選択」を測定するこれまでの試みと既存の定義との関連では、社会人基礎力との観点から、「自分の考えや保健師活動を言語化する経験」を明確に積み重ねることが、保健師教育での今後の課題であると明らかになった。また、キャリアの観点からは、学生が短期的な目標だけではなく、地域全体を捉えた長期的な目標を持ち、住民の健康課題を捉える場合に、不確かさを感じており、「選択」に影響をもたらしていることが明らかになった。

利益相反

本研究における利益相反（COI）はない。

謝辞

本論文作成の全般において、KTとYWに助言をいただき感謝申し上げます。

文献

- Abbasi, Mojgan; Farahani-Nia, Marhamat. Mehrdad, Neda; Givari, Azam; Haghani H. (2014) Nursing students' spiritual well-being, spirituality and spiritual care, Iranian journal of nursing and midwifery research. Medknow Publications, Vol. 19 (3), pp.242-247.
- Aponte Judith, Egues, Aida L (2010). A school of nursing-wellness center partnership: creating collaborative practice experiences for undergraduate US senior nursing students. Holistic nursing practice, Lippincott Williams & Wilkins. 24 (3), pp.158-168.
- Alexander, Gina K; Canclini, Sharon B; Krauser, Debbie L (2014). Academic-practice collaboration in nursing education: service-learning for injury prevention, *Nurse educator*, Lippincott Williams & Wilkins, Vol. 39 (4), pp.175-178.
- 麻原きよみ, 大森純子, 小林真朝, 平野優子, 鈴木良美, 荒木田美香子, 大木幸子, 岡本玲子, 奥山則子, 海原逸子, 宮崎砂子, 村嶋幸代 (2010). 保健師教育機関卒業時における技術項目と到達度. 日本公衆衛生誌, 57 (3), pp.134-194.
- Babenko-Mould, Yolanda; Ferguson, Karen; Athill, Stephanie (2016). Neighbourhood as community: A qualitative descriptive study of nursing students' experiences of community health nursing, *Nurse education in practice*. Elsevier Ltd, Vol. 17, pp.223-228.
- Coleman, Deidra Carroll; Frederick, Anitra; Cron, Stanley; Markham, Christine; Guilamo-Ramos, Vincent; Santa Maria, Diane (2023). Impact of preparing nursing students to deliver a parent-based sexual health intervention on attitudes and intentions for sexual health education and parent communication counseling: a mixed methods study. *BMC Nursing*, BioMed Central, 22 (1), pp.1-13.
- Christensen, Stacy; Desrochers, Raymond; Langevin, Kerri; Espelin, Jill (2020). Evaluation of a Wellness Clinic in Assessing Knowledge Synthesis Among Bachelor of Science in Nursing Students. *The Journal of nursing education*, Charles B. Slack, 59 (1), pp.26-29.
- Docherty, Angie; Franklin, Heather; Voss, Heather; Dieckmann, Nathan (2023). Career Intention of Baccalaureate Student Nurses: Understanding the Barriers, Enablers, and Predictors Toward Public/Community Health Nursing. *Nursing education perspectives*, National League for Nursing, 44 (4), pp.210-215.
- Dietrich Leurer, Marie A; Meagher-Stewart, Donna; Cohen, Benita E; Seaman, Patricia M; Buhler S, Granger M, Pattullo H (2011): Developing guidelines for quality community health nursing clinical placements for baccalaureate nursing students. *International journal of nursing education scholarship*, Walter de Gruyter, Vol. 8, pp. Article 23.
- Escolar Chua, Rowena L; Magpantay, Jaclyn Charmaine J, (2019). Moral distress of undergraduate nursing students in community health nursing. *Nursing ethics*, SAGE Publications, 26 (7-8), pp.2340-2350.
- 吹野信浩, 松浦治代, 金田由紀子 (2022). 看護学生が保健師の職業選択を強化した要因. 日本公衆衛生看護学会誌, 11 (3), pp.163-

- 171.
- グレッグ美鈴 (2005). 看護職者のキャリアマネジメントのあり方. 岐阜県立看護大学紀要, 5 (1), pp.3-9.
- 濱田真由美 (2017). Beth L. Rodgersの概念分析について—哲学的基盤に基づく目的と結果の再考. 日赤看会誌, J Jpn Red Cross SocNurs, 17 (1), pp.45-52.
- 廣金和枝, 三森寧子, 岡本玲子, 高田恵美子 (2024), 保健師基礎教育における学校保健実習のあり方 自治体に勤務する保健師の視点から. 日本公衆衛生看護学会誌, 13 (2), pp.108-117.
- 平野かよ子, 池田信子, 金川克子, 他 (2005). 看護系大学, 短大専攻科, 専修学校別の保健師養成について—教員と学生の保健師活動の認識等の実態調査—. 日本公衆衛生雑誌, 52 (8), pp.746-755.
- 藤永保 監修 (2013) 最新心理学辞典. 東京：平凡社.
- Jones, Erin; Loomis, Mallory; Mealey, Shalisse; Newman, Meaga Schroder H; Smith A; Wickline M (2019). Development of a comprehensive infection control program for a short-term shelter serving trafficked women. Public health nursing,. Blackwell Scientific Publications.36 (1), pp.53-61.
- Knecht, JanetGavin; Fischer, Be (2015). Undergraduate Nursing Students' Experience of Service-Learning: A Phenomenological Study. *The Journal of nursing education*. Thorofare, N.J. : Charles B. SlackOriginal Publication, 54 (7), pp.378-384.
- Krumwiede, Kelly A; Van Gelderen, Stacey A; Krumwiede, Norma K (2015). Academic-Hospital Partnership: Conducting a CommunityHealth Needs Assessment as a Service Learning Project. *Public health nursing*, Blackwell Scientific Publications.. 32 (4), pp.359-367.
- 経済産業省 (2025). <https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/kenkyukai/jinzaikyoka/2018/180314jinzaikyokakondankai.pdf>. (参照：2025.1.2)
- 経済産業省 (2018). 「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」(人材力研究会報告書), <https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/kenkyukai/jinzaikyoka/2018/180314jinzaikyokakondankai.pdf>. (参照：2025.1.2)
- 厚生労働省 (2002). 「キャリア形成を支援する労働市場政策研究会」報告書. <https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/07/h0731-3a.html>. (参照：2024.12.8)
- Leila Jansar Hosseini, Hosein Rafiemanesh, Somayeh Bahrami (2022). Levels of motivation and basic psychological need satisfaction in nursing students: In perspective of self-determination theory. *Nurse Educ Today*, 119, 105538. pp.1-7.
- Lambert, Ann W; Johnson, Tanya L; Fox, Margot W; Wang, Chih-Hsuan (2018). Enhancing Community Education Through Innovative Teaching Strategies in a Baccalaureate Nursing Program. *The Journal of nursing education*, Charles B. Slack, 57 (4), pp.240-244.
- Menzel, Nancy; Willson, Laura Helen; Doolen, Jessica (2014). Effectiveness of a poverty simulation in Second Life®: changing nursing student attitudes toward poor people. *International journal of nursing education scholarship*, 11 (1) pp.1-7.
- Megan L Steffy (2019). Community health learningexperiences that influence RN to BSN students interests in community/public healthnursing, *Public Health Nurs*, 36 (6), pp.863-871.
- 丸山文裕 (1981). 大学生の就職企業選択に関する一考察, 教育社会学研究36集, 日本教育社会学会/東洋館出版社, p101-219. <https://>

- www.jstage.jst.go.jp/article/eds1951/36/0/36_0_101/_pdf. (参照2025.1.2)
- 文部科学省 (2011). 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会：大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf. (参照：2024.9.29)
- 文部科学省看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会 (2024). 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定版. <https://public-comment.e-gov.go.jp/pcm/downloadseqNo=0000278474>. (参照：2025.1.2)
- Nickerson, Carolyn; Resick, Lenore K, (2010). Comparing student role perceptions: traditional to community-based curriculum. *International journal of nursing education scholarship*, Walter de Gruyter, Vol. 7, pp. Article35.
- 中原淳 (2024). 経営学習論 人材育成を科学する, pp.62, 東京：東京大学出版会.
- 中瀧剛 (2008). 中級職以下の公務員進路選択者からみるキャリア意識萌芽の実態ノンエリート学生への教育需給の視点から. *労働社会学研究*, pp.95-133. 東信堂. https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjals/9/0/9_jjals009.095/_pdf/char/ja (参照2025.1.2)
- 尾無徹, 畠山陽介, 川原恭一, 澤田彩華 (2023). 新任期保健師の内発的動機づけを高める要因と社会人基礎力の関係. *開業保健師研究*, 4 (1), pp.7-17.
- 大川内鉄二, 中島富有子, 原やよい, 窪田恵子 (2022). 看護大学4年生が持つ「進路選択の自己効力感」とその影響要因. *バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌*, 24 (1), pp.7-12.
- Pennington K ; Coast MJ ; Kroh M (2010). Health Care for the Homeless: A Partnership Between a City and a School of Nursing. *The Journal of nursing education*, SLACK Incorporated, 49 (12), pp.700-703.
- Phillips, Lynelle; Bloom, Tina; Gainey, Tammie; Chiocca, Ellen (2017). Influence of Short-Term Study Abroad Experiences on Community Health Baccalaureate Students. *The Journal of nursing education*, Charles B. Slack, 56 (9), pp.528-533.
- Rogers, B. L & Knafl, K. A. (2000). Concept Development in nursing-foundation Techniques and Applications. pp.77-102, Philadelphia: Saunders.
- Rogers, B. L & Knafl, K. A./ 近藤麻理, 片田範子 監訳 (2023) Concept Development in nursing-foundation Techniques and Applications. 看護における概念開発—基礎・方法・応用. pp.203, 東京：医学書院.
- Swider, Susan M; Didion, Judy; Campbell, Lisa; Stanley, Joan; Price MM (2017). Influence of Short-Term Study Abroad Experiences on Community Health Baccalaureate Students. *The Journal of nursing education*. Charles B. Slack, 56 (9), pp.528-533.
- van Iersel, Margriet; Latour, Corine H M; van Rijn, Marjon; de Vos, Rien; Kirschner PA; Scholte Op Reimer WJM (2018). Factors underlying perceptions of community care and other healthcare areas in first-year baccalaureate nursing students: A focus group study, *Nurse education today*. Nurse education today, Churchill Livingstone, Vol. 66, pp.57-p62.
- Van Iersel, Margriet; Latour, Corine H M; van Rijn, Marjon; de Vos, Rien; Kirschner PA; Scholte Op Reimer WJM (2020). How nursing students' placement preferences and perceptions of community care develop in a more 'community-oriented' curriculum: a longitudinal cohort study. *BMC nursing*,

- BioMed Central, Vol. 19, p.80.
- van Iersel, Margriet; Latour, Corine H M; de Vos, Rien; Kirschner, Paul A, Scholte Op Reimer WJM; (2018). Perceptions of community care and placement preferences in first-year nursing students. A multicentre, cross-sectional study, Nurse education today, Churchill Livingstone, Vol. 60, pp.92-97.
- van Iersel, Margriet; de Vos, Rien; van Rijn, Marjon; Latour, Corine H M; Kirschner PA; Scholte Op Reimer WJM (2022). The effect of a more community-oriented curriculum on nursing students' intervention choice in community care: A quasi-experimental cohort study. Nurse education in practice, Elsevier Ltd, Vol. 63, p.103410.
- Stein, Loren Nell Melton (2017). A Strategy to Enhance Student Experiences in Public Health Emergency Preparedness and Response: Medical Reserve Corps Nursing Student Summer Externship. Nursing administration quarterly, Lippincott Williams & Wilkins, 41 (2), pp.128-133.
- Szajna, Amy; Shaffer, Kathryn (2020). Public health champions in the making: An innovative undergraduate nursing pedagogy. Public health nursing Jan, Blackwell Scientific Publications Vol. 37 (1), pp.130-134.
- Su, Jing Jing; Paguio, Jenniffer Torralba; Masika, Golden Mwakibo; Wang, Mian; Redding SR; (2021). Learning compassionate care: Experiences of nursing students. Nurse education in practice, Elsevier Ltd, Vol. 53, pp.103092.
- Siemon, Mark; Gallegos, Cara; Gehrke, Pamela (2018). Assessment of public health core competencies in prelicensure baccalaureate nursing students. Public health nursing, Blackwell Scientific Publications, 35 (2), pp.150-156.
- 佐伯和子 (2018). 保健師教育のカリキュラム構築. 北海道大学大学院保健科学研究院保健師教育 2 (1), pp.2-9.
- Thompson, Cheryl W; Monsen, Karen A; Wanamaker, Kristi; Augustyniak, Katie; Thompson SL (2012). Using the Omaha System as a framework to demonstrate the value of nurse managed wellness center services for vulnerable populations. Journal of community health nursing, Routledge, 29 (1), pp.1-11.
- 牛尾裕子, 竹村和子, 小巻京子, 松下光子, 飯野理恵, 塩見美抄, 嶋澤順子, 宮芝智子 (2016). 米国における population に焦点をあてた看護実践の学士課程教育の動向 日本の学士課程における地域・公衆衛生看護学教育への示唆. 兵庫県立大学看護学部・地域ケア開発研究所紀要, Vol.23. pp.1-14.
- 内山智子 (2007). ベルクソンにおける選択と自由, 京都大学大学院人間・環境学研究科人間・環境学 博士学位論文. https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/108422/1/D_Uchiyama_Tomoko.pdf. (参照: 2024.11.30)